

# 「Society5.0時代に向けたAI・データサイエンス応用教育プログラム」自己点検・評価

本教育プログラムは1年次から3年次までの複数科目で構成しており、令和5年度末から修了者を出していく計画である。プログラム運用初年度を終えて、今年度実施した情報工学科7科目・情報コミュニケーション5科目を中心に自己点検・評価した結果を下表に示す。

| 自己点検・評価の視点                  | 評価理由  |
|-----------------------------|---|
| 1. プログラムの履修・修得状況            | <ul style="list-style-type: none"><li>● 令和3年度の本教育プログラムの履修率を履修可能な1年次生のみで算出すると、情報学部全体で91%であり、良好な状態と評価する。</li><li>● 本教育プログラムは1年次から3年次までの複数科目で構成しており、令和5年度末から修了者を出していく計画である。今年度実施した科目数は、情報工学科7科目、情報コミュニケーション5科目で、各科目の平均修得率は85%であった。両学科ともに概ね良好な状態と言えるが、来年度以降の各科目の修得率を向上させるため、確認テストで理解度が低い学生や課題の進捗状況が順調でない学生を早期に抽出して支援していく計画である。</li></ul>                                  |
| 2. 学修成果                     | <ul style="list-style-type: none"><li>● 本教育プログラムは令和5年度から修了者を出していく計画であるため、本教育プログラム全体を通じた学修成果は現時点では評価できない。令和5年度末には本教育プログラムに対する学生アンケート調査等を実施し、自己点検・評価していく計画である。</li><li>● 本教育プログラムを構成する各科目の学修成果は、ミニツツペーパーや成績評価、学生アンケート調査等で確認しながら進めており、次項で詳細に記載する。これらの評価結果を元に、各科目の担当教員がIoT・AI・データサイエンス教育研究推進センターと適宜連携しつつ改善を図っている。</li></ul>   |
| 3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度    | <ul style="list-style-type: none"><li>● 本教育プログラムを構成する各科目の受講者に対して授業アンケートを実施しており、担当教員だけでなく、IoT・AI・データサイエンス教育研究推進センターにおいても学生の理解度を把握・分析している。</li><li>● 今年度実施した科目全体で受講者の74%からアンケートの回答を得た結果、各科目の到達目標を達成したかどうかの問いに対し、「ほぼ達成した」と回答した学生が37%、「ある程度達成した」と回答した学生を含めると91%と、非常に高い割合となった。</li><li>● 来年度は、到達目標の達成度が相対的に低かった科目において学習状況が順調でないと思われる学生を早期に抽出し、学習支援を充実化していく計画である。</li></ul> |
| 4. 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度 | <ul style="list-style-type: none"><li>● 本教育プログラムが学生にとって有意義であったかどうかは、本教育プログラムが修了する令和5年度より学生アンケート調査で確認し、その結果を大学のホームページを通して公開していく計画である。将来的には、修了者へのインタビュー記事や企業から見た本プログラムへの期待などを受講生に伝えていくことによって、有意義なプログラムとして認知される割合を高めていく計画である。</li></ul>  |

| 自己点検・評価の視点                                 | 評価理由   |
|--|--|
| 5. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況            | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報学部以外の学部(工学部、環境学部、生命学部)でも、モデルカリキュラムにおける「コア学修項目」を取り扱う選択科目「AI・データサイエンス応用」を開講できるように準備を終えた。一方、モデルカリキュラムにおける「基盤となる学修項目(数学基礎、アルゴリズム、プログラミング基礎)」を取り扱う科目が整備できていないため、今後はこれらを取り扱う科目を新設できるように検討を進めていく計画である。</li> </ul>  |
| 6. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価               | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本学が主催する企業懇談会(企業の幹部／採用担当者等と教員の懇談会)や合同企業説明会(学生の就職活動を支援するために学内で開催する会社説明会)等の機会を活用して採用担当者や卒業生にアンケート調査を実施し、教育プログラム修了者の企業における活躍状況や、本教育プログラムの学修効果等を把握していく計画である。</li> </ul>  |
| 7. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見           | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 上の項目と同様に、企業懇談会や合同企業説明会等の機会を活用してアンケート調査を実施し、教育プログラムの講義内容や実データを活用した演習等の手法について意見・要望を収集し、IoT・AI・データサイエンス教育研究推進センターにおいてプログラムの改善に活用していく計画である。</li> <li>● 本学の「数理・AI・データサイエンス教育」に対する企業での認知度を高めるため、一部の教材をオンライン教材として無償公開できるよう準備を進め、複数企業との意見交換を開始したところである。今後、企業側からのフィードバックが入りやすくなる工夫を施している。</li> </ul> |
| 8. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 座学だけでなく、AI・データサイエンスの活用体験を取り入れ、それらの必要性や意義、適用領域を学生が説明できるようにすることを学習目標に進めている。</li> <li>● 将来的には、AI・データサイエンス人材育成を目的とした企業インターンシップを設計し、学ぶことの意義をさらに高いレベルで実感できるように発展させていく計画である。</li> </ul>  |
| 9. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること        | <ul style="list-style-type: none"> <li>● IoT・AI・データサイエンス教育研究推進センターにて、学生アンケート調査の結果や担当教員から見た学生の反応等の情報に基づき、学生の「分かりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しを行っている。また、担当教員間でも教材や授業の感想等を共有し、授業内容／水準の統一や改善を行っている。</li> <li>● 授業が全て終了した後のアンケート調査以外に、途中段階でミニッツペーパーや確認テストを実施することで、学生の理解度が低い部分をタイムリーにサポートしていけるようにしている。</li> </ul>                                |